

第3回 第4次四国中央市地域福祉計画審議会

日 時 令和8年6月30日（火）13:00～14:30

場 所 四国中央市役所 5階 大会議室

出席委員 大西 史郎委員（委員長）、宮崎 さゆり委員（副委員長）、山口 佐人委員、
伊藤 圭三委員、藤原 弘之委員、藤川 和章委員、窪田 あゆみ委員、吉江 周作委員、
高橋 尚子委員、吉岡 賢治委員、石黒 忠則委員、藤田 貞子委員、秦 英治郎委員、
小野 渡委員、寶利 佳代委員（委員15名中、15名出席）

傍 聴 者 なし

事 務 局 福祉部長 星川、福祉部次長兼社会福祉課長 田邊、課長補佐 山川、係長 筱原、工藤
リージョナルデザイン株式会社 安孫子 尚正、隅田 尚亮

次 第

1. 開会

2. 議事

（1）現行計画（第3次）の検証について（報告事項）

（2）地域福祉計画の骨子（案）について・・・・・・資料1

3. その他

4. 閉会

議 事 録

2. 議事

（1） 現行計画（第3次）の検証について（報告事項）

発言者	発言内容
事務局	事務局による説明
大西委員長	検証事項について意見はありますか。
	（委員からの質疑なし。）
大西委員長	次の議題に進みます。

（2） 地域福祉計画の骨子（案）について

発言者	発言内容
事務局	事務局による説明（骨子案第1部1章～2章）
藤川委員	骨子案10ページの計画期間の表に再犯防止推進計画を追加してはどうか。
事務局	追加します。
藤原委員	骨子案19ページの民生・児童委員の支援件数について、活動の実感とかけ離れている。
事務局	数値は民生委員が挙げている月報をもとに作成した。ただし、上の表（分野別相談件数）は民生・児童委員の相談支援件数、下の表（分野別支援件数）は主任児童委員の相談支援件数であるため、表現を修正する。

吉江委員	骨子案４ページの国の動向について、今年度に改正された社会福祉法、身寄りのない高齢者支援について、民法改正、成年後見制度についての内容を追加してほしい。
事務局	追加します。
秦委員	骨子案８ページの圏域設定について、３次圏域の「公民館単位」という表現は見直した方がよいのではないかと。燕崎と天満では公民館が廃止され１つの交流センターに統合されたが、地域としてはまだまとまっておらず、統合前の公民館単位に分かれて活動している。
事務局	誤解のないような表現を検討します。
大西委員長	次の内容、第１部第３章～第２部に移ります。
事務局	事務局による説明
藤原委員	再犯防止推進計画ととのこさない支援体制整備事業実施計画の位置づけがわからない。
事務局	再犯防止推進計画は全国社会福祉協議会が策定した地域福祉計画策定マニュアルを根拠として包含している。現時点ではいずれの計画も地域福祉計画内に入れる予定。
藤川委員	再犯防止推進計画を単独で策定している自治体は県下でもほとんどみられない。松山市は地域福祉計画と別個に再犯防止計画を策定しているが、四国中央市を含むほとんどの市町は地域福祉計画の中に入れるという形で策定している。
事務局	再犯防止推進計画ととのこさない支援体制整備事業実施計画は個別計画であることも考慮し、これら２つの計画を「第２部 施策の方向性」から取り出し、「資料」の前などに移動させるように対応する。
秦委員	地域で活動を進めるにあたってはリーダーの育成が一番重要だと思う。これからの地域づくりにおいて、地域活動のリーダー育成について行政も考えてほしい。
事務局	市民アンケートでも人材不足や担い手の育成が課題として浮かび上がっていた。福祉分野に限らず、まちづくりの分野などとも連携しながら人材育成を考えていきたい。
石黒委員	四国中央市の子育て環境はとても充実していると思う。安心して子どもを産めるような環境づくりを推進することで少子化に歯止めをかけられるのではないかと。 愛媛県の犯罪報告によると、四国中央市は若者の犯罪状況が県内で最も悪い。子育てよりも親育ち、若者の育成の部分で課題があるのではないかと。初犯防止の取組も必要だと思う。
吉岡委員	そもそも初犯防止の計画はあるのか。
大西委員長	犯罪防止に関する活動として、犯罪防止月間が明日から始まる。保護司や更生保護女性会の協力を受けながら１か月間街頭での犯罪防止活動を実施する。
藤川委員	犯罪はいつどこで起こるかかわからないほか、内容自体も多岐にわたるため、具体的な犯罪防止計画の策定は難しい。こうした計画の策定は認知していない。そのため、地域全体で協働して呼びかけ活動などに努めたい。
伊藤委員	小学校高学年から中学生の居場所があまりないことが気になり。放課後学級の

	ようなものもあるが、そこに入れていない子どもも多いと思う。子どもの居場所についてはこれから検討する必要がある。
--	--

秦委員	小学校の統廃合が今年度から検討されているが、地区の単位（圏域）にも影響を与えるかもしれない。 若者の間で AI の利用が浸透しており、相談相手としての利用も急速に拡大している。新しい問題が発生しないか心配。
大西委員長	学校の統合の部分については、事務局と教育委員会で連携してほしい。
寶利委員	介護予防教室の委託を受けているが、プロポーザルや日程調整の関係で開催期間が9月～3月となってしまう。楽しみに待っている参加者も多いため、通年で実施できるようにしたい。
事務局	高齢者福祉計画や介護保険事業計画と連携し、事業推進する。
小野委員	地域福祉活動の基礎単位を3次圏域（公民館単位）としたのは、既存のシステムを利用した方が手取り早いのか。骨子案31ページには「助け合える地域の範囲を「隣近所」や「自治会など」と考える人が8割近くを占め」とあるので、1次圏域（自治会・町内会の組・班）や2次圏域（自治会単位）の方が適切ではないか。
事務局	各事業の実施内容に応じて対応する圏域は変わる。表現の仕方について検討したい。
山口委員	地域のまちづくり活動においては自治会単位の活動が重要だと思う。また、地域の人間関係が希薄になってきていることで、地域で子どもを育てることが難しくなっている。
宮崎副委員長	石黒委員が話した通り、四国中央市の子育て支援はすごく充実している。そのため、子育て支援制度を利用している方と制度を知らない・面倒で使わない方で、子育ての実感について大きなギャップがあると思う。 地域ぐるみの子育ての重要性を先日出席した会で耳にしたため、スクールサポーター制度などを利用しながら、市と一緒に進めていきたい
大西委員長	山口委員、宮崎副委員長が話した「地域ぐるみの子育て」は大切だと思う。しかし地域の実態をみると、高齢化の進行によって支援体制を確立できない地域も出てきている。こうした観点では圏域の拡大などの見直しが必要ではないか。 次の内容、第3部に移ります。
事務局	事務局による説明
大西委員長	意見はありますか。
	（委員からの質疑なし。）
大西委員長	骨子案について承認の方は、挙手をお願いします。
	（出席した議員全員が挙手）

3. その他

発言者	発言内容
事務局	次回審議会は8月下旬に実施予定。議題は計画素案についての予定。

以上